

## 2章 総合問題2

### 問題

#### 【1】

A.

#### 全訳

天才がその存命中に名をなすことはめったにないということは、周知の事実である。㉔天才は周囲の人々より格段に優れているので、すぐには理解され得ないのである。そして彼の著作や絵画や彫刻や音楽は、あまりにも優れているので、その真価はなかなか認められないのが普通である。㉕非凡の才が優れていればいるほど、世間の人々がそれを発見し理解するのに長い時間がかかる。

B.

#### 全訳

部屋は暖かくて清潔だった。カーテンは引かれ、2つのテーブルランプには明かりが点いていた。彼女のもの、向かい側の空いた椅子のそばのもの。彼女の背後のサイドボードには2つの背の高いグラス、炭酸水、ウイスキーが、そしてサーモス社製の氷入れの中には新しい角水があった。メアリー・マロニーは夫が仕事を終えて家に帰ってくるのを待っていた。

時折彼女は時計に目をやった。だがそれは心配してではなく、ただ単に刻一刻と時が過ぎていくごとに彼が来る時が近づいてくると思うとうれしくなるからだった。

#### 【2】

#### ポイント

第1、第2段落は、生存のためには人間がいかに自然環境に適応せねばならなかったか、そのために人間は何をしてきたかの説明である。特に器具を製作し利用したことが、原始的な状態から人間が抜け出ることを可能にしたということを述べている。器具の製作や利用は人間が経験的に学んだことであるが、人間は古代エジプトやギリシア・ローマ時代になると知性の異常なまでの高まりがあり、自然というものを理解しようとする努力が始まったというのが第3段落である。しかしアリストテレスに代表されるようにこの時代の風潮は、人間の知力は最高ですべての問題を解決できるという、思い上がったものであった。人間は時代精神にしばられた存在であるという3段落構成で展開されている主張である。

#### 解答

- (1) a Whether      b survive      c or      d not  
(2) 「全訳」の下線部㉔を参照。  
(3) were exceedingly simple, too      (4) b  
(5) 「全訳」の下線部㉕を参照。  
(6) of      (7) c



(7) ○ the last word

- ① the final or definitive pronouncement on or decision about a subject
- ② the finest or most modern, fashionable or advanced example or something

○ to come (名詞に伴って)「将来到来する；未来の」

ここでは時制は過去なので for many centuries to come は「その後何世紀にもわたって」の意味になる。

e.g. the world to come (来世)

a pleasure to come (先の楽しみ)

in years to come (これから何年にもわたって)

generations to come (後の世代)

- a 「彼の考えはあまりにも難しかったので、彼の死後何世紀もの間理解されなかった。」
- b 「何世紀も経った後、ついに彼の考えが一般に受け入れられる時が来た。」
- c 「彼の考えは彼が生きた時代の後何世紀も絶対に正しいと信じられた。」
- d 「何世紀もの間、人々は彼の考えは彼の死の間に言ったことの中に表現されていると信じた。」当然 c である。

(8) such a suggestion は to test it を指し、it は a big stone falls faster than a small one を指す。

(9) 「彼が生きた時代の支配的傾向」という意味である。アリストテレス (384-322B.C.) の時代の科学は実験的に証明するというのではなくて、人間の知能が絶対で、それはすべての問題を解決できるとしたのである。a faith in the supreme power of the mind, which, it was thought, could solve all problems まで含めても正解とする。

**全訳**

自然は大きな存在であり、人間は取るに足りない存在である。人間生活の質と水準は、人間が自然とどのような関係にあるか、また人間がどの程度自然を理解し、その力を利用するかによって常に決まってきた。

どの動物も生き残れるかどうかは環境への適応能力しだいである。①人間は生まれてきた世界に適応しなくてはならなかったという点では他のいかなる種の動物とも同じである。十万年位前のこの世界は極めて単純であったし、抱えていた問題も同様であった。主たる問題はどのようにして1日を生き抜くか——すなわち、食料や住処やその他要求される簡単な必需品は何であれ、それらをどのようにして見つけるかであった。そこで人間は熊と狼、岩と樹木、彼が生きている世界の基本的な構成単位のすべてを区別することを可能にさせる判断能力を発達させた。人間の生活は物を作って利用することを覚えるにつれて改善された。針、車輪、矢、火、金属、粘土を硬くすることなどの発見は原始の状態から人間が向上していく1つひとつの進歩の印を示すものであった。

こういった発見は人間の日常経験に基づいていた。②古代エジプトやギリシア・ローマ世界に顕著であった人間の知性の異常な高まりがあって初めて、いたるところで人間は自然を理解しようとする試みを始めたのである。このような試みは「古代科学」として要約できる。全体的に見て、この時代の科学を特徴づけたのは人間の知力は最高の力を持っているという



- ℓ. 6 ◇ say (数詞の前で)「おおよそ；約」  
 = suggest (something) an example or theory  
 ◇ a hundred thousand = 100,000  
 ○ a がつくとそれ自体で about の意味になる傾向にある。  
*cf.* for a second (ちょっとの間)  
 for one second (1 秒間)  
 ◇ exceedingly = extremely
- ℓ. 7 ◇ get through = manage to live through
- ℓ. 8 ◇ alive = (of a person, animal, or plant) living, not dead  
 ※ここでは「準補語」として用いられている。  
 ◇ shelter = a place giving temporary protection from bad weather or danger  
 ※ここでは「隠れ場」「避難所」という意味ではなくて「(雨風から身を守る場所としての) すみか」という意味。  
 ◇ , whatever simple requirements were needed  
 = , or any simple requirements that were needed  
 ※要するに whatever simple requirements were needed 全体の機能は, or whatever (～か何か) に具体的な情報を加えたものと考えればよい。  
 ○ requirement = a thing that is needed or wanted
- ℓ. 9 ◇ enable A to … 「Aが…するのを可能にさせる」  
 ◇ distinguish between A and B 「AとBを区別する」  
 ○ distinguish = see or recognize the difference or distinction between  
 ◇ the basic units of his world 「世界の基本的な構成単位」  
 ○ unit = a group of objects or persons thought of as single and complete in itself
- ℓ. 10 ◇ improve = become better
- ℓ. 12 ◇ mark = indicate the position of  
 ◇ station = 「人・物が配置されている場所」が原義である。  
 ここでは、人間の進歩の歴史の道のりの上に (on his upward road) 印された、the needle, the wheel, the arrow, fire, metals, the hardening of clay などの発見という、進歩の段階を示す痕跡のことである。  
 ◇ upward[ʌpwɔːrd] = moving, pointing or leading to a higher place, point, or level
- ℓ. 13 ◇ be based on 「～に基づいている」  
 < base (something) on = use (something specified) as the foundation or starting point of something  
 ◇ everyday[ˈevrɪdɪ] = daily ; happening every day
- ℓ. 16 ◇ effort = a vigorous or determined attempt ; the result of an attempt  
 ◇ sum up = give a brief summary  
*cf.* summary = a brief statement or account of the main points of something  
 ◇ as *prep.* 「～として」  
 ◇ “science of antiquity” 「いわゆる古代科学」

“science of antiquity” は現代科学 (modern science), 古典科学 (classical science) と対比してエジプトや古代ギリシア, ローマ時代の科学のことである。

○ antiquity[æntɪkwəti] = the ancient past, especially the period of classical and other human civilizations before the Middle Ages

◇ on the whole = taking everything into consideration or account


cf. as a whole = as a single unit and not separate parts

ℓ. 17 ◇ faith = complete trust or confidence in something

◇ supreme[su(:)prɪ:m] = highest in rank ; very great

◇ , which, it was thought, could solve all problems

○ , it was thought, は副詞に格下げされていて

 という構造になっている。

この箇所は It was thought that the supreme power of the mind could solve all problems. が基底にある。the supreme power of the mind を先行詞とする, 非制限用法 which により導かれている節である。

ℓ. 18 ◇ illustrate[ɪləstreɪt] = make clear by giving or by serving as an example or instance

ℓ. 19 ◇ Aristotle[érəstə:tɪl] 「アリストテレス (古代ギリシアの哲人。384-322 B.C.)」

ℓ. 20 ◇ claim = assert in the face of possible contradiction ; maintain

◇ remarkable = worthy of being or likely to be noticed especially as being uncommon or extraordinary

ℓ. 21 ◇ it never occurred の it は to test it を指す。

○ occur = come to mind

◇ test = apply a critical examination to

ℓ. 22 ◇ take A as B = regard A as B

◇ insult[ɪnsʌlt] = a disrespectful or scornfully abusive remark or act

ℓ. 23 ◇ “spirit of our times” 「私たちの時代精神」

ドイツ語の Zeitgeist[tsáitgəist] である。なお, この語句は a very narrow cage と同格になっている。また, 直後の in which 以下は a very narrow cage を修飾。

ℓ. 24 ◇ motion = the action or process of moving or being moved

ℓ. 26 ◇ pick up = lift up

◇ which one = which stone

○ which は疑問詞。

【3】

A.

解答

- (a) (1) It is hard to tell Englishmen from Americans just by looks.  
(2) This is the best way to settle this issue.  
(3) I am sorry to have kept you waiting so long.
- (b) (1) Not a sound could [was to] be heard on the street.  
(2) Merely to breathe does not mean to live.  
(3) It is very rude to write a letter in red ink.
- (c) (1) Could you tell me how to get to the airport?  
(2) In a democracy everyone has a right to express their opinions.  
(3) When he was asked to make an impromptu speech, Yoichi was quite at a loss what to say.

解説

- (a) (1) tell が与えられているので, tell A from B (AとBを区別する) という言い方を思い付いてほしい。  
「顔だけで」は just by looks。この looks は「容貌」の意である。  
したがって、「顔だけでイギリス人とアメリカ人を区別すること」は, to を補って, to tell Englishmen from Americans just by looks となるのがわかる。ただし, 2語不足という条件なので, 形式主語 it を補って, It is hard to tell Englishmen from Americans just by looks. とする。
- (2) 「…する最善の方法」は, the best way to … の形にすればよいのはすぐわかる。「この問題を解決する」をどうするかであるが, issue が与えられているので, 「この問題」を this issue とするのは容易だが, this issue を目的語とする場合の「解決する」という動詞は何か, と考えると難しくなる。結論を言うと, settle, または, solve が可能である。「解答」では, より一般的な settle を用いた。  
cf. Has the trade *issue* between Japan and the United States been *settled*?  
(日米間の貿易問題は解決しましたか。)
- (3) 「…して申し訳ありません」は, 「原因」を表す to 不定詞を用いて, I am sorry to … とする。  
「長い間お待たせして」は, kept が与えられていることから, 完了不定詞を用いて, to *have kept you waiting* so long と続ければよい。なお, この文は入試に頻出する典型的な文なので, よく覚えておこう。
- (b) (1) 書き出しが与えられていなければ, No sound could be heard on the street. となるが, Not で始めるのが条件なので, Not a ~ = No ~ を思い付くかどうかのポイントとなる。この Not は, 次の不定冠詞の a を否定して, 「1つもない」, つまり, 「ゼロの」という no と同じ意味を表す。したがって, Not a sound could be heard on the street. を導くことができる。could の代わりに, 「可能」を表す be + to 不定詞を用いて, Not a sound *was to be heard* ~ とすることも

できる。

- (2) 文頭の Merely は only と同義語である。次に to が与えられているので、日本語を「ただ呼吸をすることは、生きていることを意味しない」と考えれば、Merely to breathe does not mean to live. を導くのは容易だろう。

「呼吸をする」は、breathe, respire だが、動詞が思い付かなければ、take a breath としても間違いではない。

「意味する」は、mean, signify を用いる。

- (3) It で始めるのだから、It is ~ to … の形を用いることになる。

「きわめて失礼なこと」は、a very rude [impolite] thing としてもよいし、形容詞で very rude [impolite] としてもよい。

「手紙を書く」は write a letter。

「赤インクで」には要注意。単に「インクで」なら in ink でも with ink でもよいが、「赤インクで」という場合は、in red ink だけが正解である。

- (c) (1) 「教えて下さい」は、ここでは「道順を教える」のだから、teach ではなく、tell または show を用いて、Could [Would] you tell [show] me …? とする。「to 不定詞を用いて」という条件があるので、how to get to the airport と続ける。「～へ行く」は、到着点を重視する場合は、go to ~ よりも get to ~ を用いるのが普通。

airport は、不定冠詞を付けるとどこの空港でもよくなってしまうので、ここでは「話者の間の了解事項」を表す定冠詞 the を付ける。

- (2) 「民主国家」は democracy という 1 語で表すことができる。ただし、可算名詞扱いである点に注意。「民主国家では」は in a democracy でよい。

「…する権利がある」は have a right to … とする。

「誰にも」は everyone [everybody] だが、対応する動詞は単数扱いである。

「自分の意見を発言する」は、state [give ; express] A 's opinions とする。everyone に対応する「自分の」の訳し方については、文法的には単数扱いなので his (or her) だが、通常は their を用いることが多い。

- (3) 全体の構成は、When S' + V', S + V. となる。代名詞を先行させて、When he + V', Yoichi + V. としても、When Yoichi + V', he + V. としてもよい。

「急にスピーチを求められる」は、「即興的なスピーチをしてくれと頼まれる」と考えて、be asked to make an impromptu speech とする。make an impromptu speech は、speak impromptu, speak off the cuff, speak without preparation のように表しても可。

「何と言ってよいのかわからなくて困る」は、「何を言うべきか途方に暮れる」と考えて、be (quite) at a loss (as to) what to say としてもよいし、シンプルに do not know what to say としてもよい。



B.

**解答**

- (1) A : Have you decided where to spend the summer vacation?  
B : Yes, we're going to the mountains.
- (2) A : I think I'm the world's poorest speaker of English.  
B : But you have been in London for only two days.  
A : It is very kind of you to say so. To tell the truth, I've been studying English for twenty years now.

**解説**

- (1) 「夏休みを過ごす」は spend the summer vacation [holiday(s)] でよい。  
「どこで…するか決める」は, decide where to … とする。ここでは「もう決めていますか」というニュアンスなので, Have you decided …? と現在完了にすべき。  
「山へ行く」は go to the mountains (複数形) となる点に注意。  
「山へ行くこと」はすでに決定している予定なので, will を用いるよりも, be going to か, または進行形の be …ing を用いる方が普通。
- (2) 「私は英語を話すのが下手だ」は, I am a bad speaker of English, I am poor at speaking English, my English is terrible, または, I'm the world's poorest speaker of English など, いろいろ工夫できる。  
「君はロンドンに来てから2日間しか経っていない」は, you have been in London for only two days, it's been only two days since you came to London, あるいは, only two days have passed since you came to London などの書き換えが可能だが, you で始めるのが会話体では最も自然。  
「そう言って下さるとはご親切なことで」は, it's very kind [nice] of you to say so [put it that way], How kind of you to say so! のように表現できる。  
「実は」は in fact, as a matter of fact, to tell the truth, actually など。  
「これまで20年間も英語を研究しているのです」は, 現在完了進行形を使って, I've been studying English for twenty years now とする。  
「20年間も」の「も」を訳出したければ, for *no less than* twenty years のような言い方にしてもよい。

**【4】**

**解答**

- (1) celebrating → celebrated  
(2) exciting → excited  
(3) to take out → taken out  
(4) ○  
(5) It → There  
(6) knowing → known  
(7) Comparing → Compared

- (8) shone → shining [shine]  
 (9) the distance was → the distance being [since the distance was]  
 (10) Seeing → Seen

**解説**

- (1) 「その有名な女優は飛行機から下りると、たちまち歓声を上げるファンに囲まれた。」  
 ○ celebrated 「名高い」  
 ○ cheering 「歓声を上げている」  
 cf. cheered 「元気づけられた」 ※受動的意味。
- (2) 「観衆はますます興奮しているようだった。」  
 「興奮した」の意味を表すのは excited。  
 cf. exciting (興奮させるような)  
 cf. an excited man (興奮した男性)  
 an exciting man (わくわくさせるような男性)
- (3) 「今日の午後歯医者に行って親不知おやしらずを抜いてもらう。」  
 ○ get A 過去分詞 「Aを…してもらう」  
 my wisdom tooth is taken out という受動関係。  
 cf. get A to … 「Aに…させる」  
 I'm seeing は確定的な未来・予定を表す現在進行形。
- (4) 「学校では子供たちに単に本を読んだり、誰かが話すのを聞いたりさせる代わりに、何かをする機会を与えることがとても重要である。」  
 ○ It is ~ to … 「…することは～だ」 It は to … を受ける形式主語。  
 ○ instead of …ing 「…する代わりに」  
 ○ have A … 「Aに…させる」  
 ○ listen to A … 「Aが…するのを聞く」
- (5) 「バスの便がなかったので我々は丘の上の公園までずっと歩かねばならなかった。」  
 「バスの便がなかったので」は独立分詞構文で、接続詞を用いると Since there was no bus service.
- (6) 「古典的建築で有名なメキシコシティは、アメリカ人旅行者が休暇を過ごすのに人気のある場所である。」  
 「知られている」という受動関係がある。  
 = Mexico City, which is known for ~  
 ○ be known for ~ 「～で知られている」
- (7) 「他の国々と比べると、日本は住むのにとってもお金のかかる国だ。」  
 独立分詞構文ではないので、分詞の意味上の主語は Japan である。Japan と compare との間には Japan is compared with ~ という受動態が成り立つので Compared になる。
- (8) 「地上の方を見た時、何か白いものが日なたに光っているのが見えた。」  
 ○ see A … […ing; 過去分詞] 「Aが…する [している; されている] のを見る」  
 something was shining という能動関係が成り立つ。

光ってから消えるまでの一連の過程を見た、とするならば shine でも可。

- (9) 「距離がとても遠かったので、それが何であるのかわからなかった。」  
「非常に離れていたのので」と理由を表す独立分詞構文にするか、接続詞を補って完成した文にする。
- (10) 「この角度から見ると、その岩はライオンのように見える。」  
the rock と see との間には The rock is *seen* from this angle, という受動関係が潜在するので Seen とする。

## 【5】

### 解答・解説

- (1) My dog was kept tied to the tree in the park.  
keep A 過去分詞 (Aを…された状態にしておく) の受動態。  
Aと過去分詞の間には受動関係がある。
- (2) We don't want to have you involved in this trouble.  
○ have A 過去分詞「Aを…させる」  
you are involved in this trouble という受動関係が潜在するので過去分詞。  
○ involve ~ 「～を巻き込む」
- (3) He was listening to the radio with his eyes closed [shut].  
○付帯状況を表す with A C (過去分詞)  
his eyes were closed [shut] という受動関係が潜在するので過去分詞。
- (4) He sat surrounded with [by] his friends.  
主語の状態を補足する分詞の用法。  
cf. She stood *singing* the song. (彼女はその歌を歌いながら立っていた。)
- (5) Can't you feel the house shaking [trembling ; quaking] ?  
否定の疑問文。  
○ Can't you ...? 「…できないかい？」  
○ feel A ...ing 「Aが…しているのを感じる」